



定住外国人子ども奨学金 News Letter

※定住外国人子ども奨学金ニュースレターWeb版は個人情報などの都合上、内容を一部変更して
います。

「第6回KOBECンタービレ・コンサート雑感」

さまざまなルーツを持つ定住外国人の高校生に奨学金を送ろうと、2009年から毎年開催されている「KOBECンタービレ・コンサート」(チャリティ)が、「連合・愛のキャンパ」地域助成を受け、去る10月19日(日)にJR新長田駅前のピフレホールで開催されました。

今回は、ユーフォニアムグループ Grow (グロウ 坂岡裕志代表) が出演され、4名のユーフォニアム アンサンブルが奏でる名演に魅了されました。



第1部ではクラシックを中心に心地良い演奏に酔いしれ、サウンドの新鮮さに驚きを感じました。バレエ「白鳥の湖」より「白鳥の踊り」では、陶酔を打ち消すように男性3人が、手をつないで下手より不揃いなステップを踏みながら登場し10歩ほど進んだかと思うと、突然下手へ戻っていくというコミカルなパフォーマンスに会場は笑いに包まれました。「大きな古時計」では操り人形のピノキオのようなパフォーマンスを演奏しながらの演出、お客さんを飽きさせない工夫に感動しました。そして「子象の行進」「グレンミラーメドレー」では、変化に富んだすばらしい編曲が音楽の魅力を増加させたと感じました。

第1部と第2部の幕間ではフィリピン、中国、ペルー、メキシコ、ベトナムなど様々なルーツを持つ奨学生の高校生7名がステージに登場し、充実している今の高校生活や進路の希望を話してくれました。実行委員のひとりとして、彼らが輝かしい将来に向かっていく姿を見て、少しでもサポートすることが出来たことを思い、ほっとする一瞬でもあります。そして、彼らにつづく高校生のためにも、一層の努力を重ねていこうと思います。

第2部では、はじめにユーフォニアムの仲間たちの楽器が紹介されました。私は永年音楽に携わっておりますが、今回のようにアメリカ、イギリス、ドイツ、フランスなど約10種類のユーフォニアム族の楽器が揃ったのは初めての体験でした。貴重な経験をさせていただきました。Grow代表の坂岡さんの意気込みが感じられるコンサートでした。「トランペットヴァランタリー」はすばらしい編曲と絶妙なアンサンブルに驚愕しました。そして、「崖の上のポニョ」「もののけ姫メドレー」「見上げてごらん夜の星を」「世界に一つだけの花」など子どもから大人まで聞き覚えのある曲を演奏して頂き、最後は「サウンド オブ ミュージックメドレー」で締めくくり、様々なジャンルの曲とユーフォニアム四重奏という珍しい演奏に魅了された一日でした。

第1回から実行委員の皆さんと企画・構成に関わっておりますが、このような素晴らしい演奏会が開催できますのも、皆さんの惜しみない協力とご理解に支えられております。今後ともご支援のほどよろしくお願ひします。

(実行委員 M. K.)

奨学生からのメッセージ

今回は、自分でテーマを決めて作文を書いてもらいました。

I さん (7 期生)

この夏の出来事

猛暑日が続くこの夏は、あっという間に過ぎてしまいましたが、私にとってとても有意義なものになりました。その中で、私がこの夏を通してやりがいがあると感じた出来事が二つありました。

一つ目は、私が参加している学校のバスケットボール部での出来事をお話しします。

八月上旬、私たちバスケットボール部は大阪で開催されたインターミューラルカップに参加しました。この大会は近畿地区では、とても有名であり、今までの練習成果を見せる大会になります。阪神地区から五十四校のチームが選ばれ、わが兵庫県立K高校もこの大会に出場しました。今年は台風が多く、三日間の開催予定でしたが、初日は警報で中止となり、雨は先輩や私たちの気持ちを乱れさせました。

しかし、翌日の試合では、同年代の選手が一生懸命に頑張っている姿を見て、私たちの闘志も燃え上がり、精一杯試合に挑みましたが、結果は思い通りにはいきませんでした。

この試合で得たのは他校の生徒の技術の高さ、テクニックの巧みさであり、我々ももっと経験を積み、技術を磨きたいと思いました。

二つ目は、自分の将来の目標をはっきりと決めた事です。

この夏、アフリカではエボラ出血熱、日本でもデング熱などが流行している事を、新聞やインターネットで知りました。報道を知った私は、感染症や病気で苦しんでいる世界中の人々に何かしてあげられる事はないかなと思いました。

さらに、沢山の人々は貧困である為、医療を受ける費用さえありません。私自身も毎年、インフルエンザや熱、風邪などの病気で学校を休んだり、集中できなかつたり、精神的にとっても辛い事がありました。私は小さい頃から、患者さんを治して、幸せにさせられることができるお医者さんがとても格好良く思えて、憧れていました。ですから、頑張つて勉強し、目標として医科系の学校へ進学を目指し、沢山の医療知識を得て、世界中の人々の役に立ちたいと思います。

この様な目標の為には、現在定住外国人子ども奨学金から様々なご支援をいただいている事を有効に活用し、目標達成の為に役立てたいと思っています。そして、必ず目標を達成するように頑張ります。

S さん (7 期生)

二学期の高校生活

9月からS高校で初めての二学期が始まりました。一番最初に私を待っていたのは夏休み明けの課題考査です。私は夏休み中に行われた三者面談で担任の先生と母に「次の課題考査では学年順位を50位上げる」と約束しました。ひとつ前のテストではあまり良いとは言えない結果をとっていた私からすれば、50位も上げることは難しいと思っていました。でも、私から言い出したことなので頑張ろうと思いました。おかげで順位を50位以上上げることに成功しました。

9月末には体育祭を行いました。私は体育委員長として、生徒会執行部のみんなと夏休みの時から企画し始めていました。台帳を作ったり、道具を運んだりと忙しかったです。開会宣言や閉会宣言は千人近くの生徒とその保護者を前に、一人で行うので緊張しました。S高校での体育祭は学年ごとの勝敗はもちろんありますが、学年を超えての繋がりを大切にするために紅白制を導入しています。私は紅組でした。学年順位では勝てなかったけれど、紅白制では勝てたので嬉しかったです。体育祭の

後は先生から生徒会へ差し入れがあったので、とても嬉しかったです。体育祭が終わった後も体育委員長としての仕事が少し続きましたが、とても楽しかったです。

10 月には校外学習で京都に行きました。集合と解散以外はすべて自由でした。自由だからこそ、自分達で京都について調べたり、考えたりして、計画を立てました。いろんなところに行きました。京都のスイーツから漬け物まで楽しめました。

そして、ハロウィンの日は丁度、S 高校では文化部合同発表会の日でした。文化部の様々な作品や活動の様子を見ることが出来ました。その後、生徒会のみinnでハロウィンパーティーと打ち上げを一緒に行いました。みんなで手作りのお菓子を食べて、トランプで遊びました。とても楽しかったです。

二学期も、そろそろ終わりに近づいて来て、冬休みに入ろうとしています。でも、その前に期末考査があります。自分の出来る限り頑張ろうと思います。そして、思いっきり楽しい冬休みを過ごそうと思います。

Jさん (7 期生)

教育における進化

ネットサーフィンをしていた時、偶然にも、ジャパントイムズ電子出版のウェブサイトの中で、非常に興味深い記事に出くわした。昨年、安倍首相は、ここ 20 年間における経済的衰退からの脱却、という趣旨の政府計画を発表したのであるが、その計画においてキーとなるプロジェクトを、ジャパントイムズは扱っていたのである。プロジェクトは、「スーパーグローバルハイスクール(SGH)」と名付けられており、主に 56 の高等学校に「革新的な」教育ポリシーを導入することに重点を置いている。そのポリシーは、生徒が、日本を拠点とする大学や国際組織、また企業や非営利団体と共に、世界規模で広がる人道問題取り組むことができるように、彼等のコミュニケーション能力、問題解決能力を磨くことを主題としている。初等中等教育局国際教育課課長補佐である河村 裕美氏は、このプロジェクトで、ユニークかつグローバルな日本人の人材を育成するのだ、と語る。

これは、国がグローバル化にさらされている事実に対して、日本が大変敏感になっているという顕著な証拠である。私は日本に住んで 5 年になるのだが、異国のライフスタイルに順応するにのに、数えきれない程の困難を経験してきた。10 代の若者として、教育を受ける行為は、自身のライフスタイルに影響を及ぼす最も大きな要素だと感じる。異国の教育方法を自身に適應しようとする過程は、非常に複雑で難しい。誰かとコミュニケーションを取る能力を身につける事から、文化価値を理解する事、これら全ての困難を乗り越える事に全力を注ぐ必要性が、順応するという事をハードルの高いものとしてしまう。

現在私は、高校一年生だ。公立高校で学ぶ事によって、私はうまく日本の「スクールライフ」に順応できた、と言える自信を持っている。しかし、私の様に、若い移民が日本に増えるつつある状況の陰に、もっと目を留めるべき問題があるように思われる。いかに日本の教育システムが、日本人学生の事しか考えていないか、という事に、私自身経験して気が付いたのである。これは、授業のレベル、特に英語の授業のレベルが、上がることなく何年も改訂されていない事実からして明らかである。英語が話せる生徒からすると、この状態で行われる授業を受けても、何の利益にもならないのだ。

英語の先生方や教頭先生の協力があって、この問題に視点を置いた「トライアル」を行う事ができている。いくつかの通常の英語の授業の代わりに、「ALT 教師が指導する、特別な発展英語を学ぶ授業」を試しているのだ。新聞や雑誌に掲載されているようなレベルの記事を理解し、書く能力を身につける事を主な目的として、この授業は行われる。理数系の科目と並んで、この授業は私にとって大変役立つものなのだ。

ほんの一握りの外国人学生にしか、この種のプログラムを体験できる機会やリソース、そしてその良さを感じるチャンスは与えられていない。「日本が持つ、プラスの特性は保持されるべきだ。だが、

思考は、グローバルレベルに到達している必要がある。」河村 裕美氏は語る。

結論として、現在の教育システムは、日本政府が達成しようと試みている事に反し、多様性への扉を開こうと努めている社会に順応する柔軟性に欠けている、と言えるだろう。教育は、私達の社会を支える大黒柱である。問題は、それが支えとなれる程、十分な強さをもっているかどうかという点にある。

Kさん (6期生)

ESS 兼空手部です

「日本から動物園を廃止すべきか。」という問に対して、皆さんならどう答えますか。これは、来年、私が参加する英語のディベート大会の題です。英語でディベートをするのは、人生で初めてのことで、正直不安でいっぱいです。兵庫県の沢山の高校が出場しますが、そのほとんどが、国際科や、グローバルコースを持つ学校で、参加する生徒たちは、その科やコースに所属しています。私の学校には、そのようなコースはありますが、私を含め参加する生徒達五人とも普通科です。そして、五人中三人が運動部ということもあり、ほとんど集まれない状態が続いています。とくに、資料収集に苦戦しています。動物園とは、命を扱う場なので、感情論が多いです。しかしながら、ディベートでより強い影響を与えるのは、数や量などの数値です。人の感情を数値で表すことは、難しいことです。このような困難が、私たちの前に壁のように立ち塞がっています。私一人では、この壁を壊すことも、のぼることも越えることも絶望的です。他のメンバーのお蔭で、一つずつ少しずつ前に進んで来ます。去年は、数人足りなくて参加を断念し、代わりと言っては何ですが、プレゼンテーションの大会に参加しました。今回、ディベート大会に参加したことで、「仲間と協力するのは大事」という言葉がただのきれいごとではないと実感しました。昨年から参加したかった大会なので、五人で力を合わせて頑張っています。どういう結果になるか分かりませんが全力を尽くします。

もう一つご報告したいことがあります。前日、私、Kは憧れの「黒帯」を取得できる初段に昇段しました。審査の日は緊張しすぎて、練習を始める前まで、一人で爆笑していました。いざ、審査会場に入っても、夢のようで、実感が湧きませんでした。今でも、夢なのではないかと、ソワソワしています。ただ今絶賛期末テスト中ですが（絶賛しているのは、もちろん先生方のみです）同じ空手部の友人達と「黒帯」の購入予約をして来ました。首を長くして待っているの、私の「黒帯さん」早く完成してほしいです。

Nさん (6期生)

時間はすぐに経っていくものかもしれない

二学期の終わりが近づいてきました。期末テストが終われば、すぐに終業式がやってきます。だから、最近では期末テストに向けて勉強を頑張っています。

一年生のときを思い出すと、たくさんの思い出があります。その中には、例えば、友達と遊んで、宿題をやり忘れたこと、落ち込んでいるときに友達と公園や海で話したこと、あるいは、価値観の違いで、人とケンカしたことなど、まるで昨日のことと思えるくらいはつきり覚えています。

高校に入ってから、たくさんの事を学びました。知識はもちろん、人とのかかわり方や物事の伝え方について、自分なりに理解しました。成長していく中で、様々なことを経験しながら過ごしました。

そして、あっという間に、高校生活が半分過ぎました。少し前までは、「まだまだ時間がある」、「そのうちにわかるようになる」など、甘い考え方で、言い訳ばかりしていました。しかし、今はもうそんなことを言う暇もなく、受験のことについて考えるようになりました。

これからは、自分の将来のことをきちんと考えて、今までの勉強の仕方を見直して、志望校に合格

できるように努力したいと思います。毎日のやるべきことを先に延ばさずに、その日のうちにやり切ろうというふうに考えています。

人はどういう風に過ごしても、24 時間しかありません。だからこそ、限られた時間の中で、人が時間をどう使うのかは、その人の自己責任になります。したがって、私は、日々の生活の中で、時間を大切に、自分の夢に向かって、少しずつ近づいていきたいと思っています。

Yさん (6 期生)

進路講演会を通して

今年の 10 月、僕は 18 歳になりました。ペルーの法律なら成人となる節目の年です。しかし、特別に何かが変わったと感じることもなく、いつも通りの生活をしています。感じるのは、今年も残すところあと少しであるということ、来年の春には部活を引退し、受験生としての生活が始まるということです。

2 学期期末考査一週間前のある日に、神戸の駿台予備学校の校長先生による「進学講演会」が学校で行われました。この講演会で、受験人口の減少にともない、二、三十年ほど前のように激しい競争をすることなく、大学に入れるようになりつつあることを知り、驚きました。

他に興味を持った内容が 2 つあります。1 つは学習計画についてです。受験は「基礎」がどれだけしっかり出来ているかの一言に尽きると聞いて、安心と不安が頭をよぎりました。なぜなら、学校では、予習と復習をすることが習慣化し、しなければ、授業ペースについていけなくなるからです。確かに数学や物理のように大問の 1、2 問目の多くが基本的な原理や公式を使った問題を出題し、そこでつまずくと、応用問題に発展することが出来ないものもあります。

基礎力以外にも何かをやり抜くことが大切だと思いました。予備校が予備校生に行った調査で、受験で失敗しやすい例として、参考書を所持しすぎても、使うのは 2、3 冊というデータがあるそうです。問題集ならすでに持っているのだから、今はそれをマスターしていこうと思いました。この冬休みは、2 学期に出来なくて、ふり返る時間がないと決めつけ、ないがしろにしていた問題をふり返る期間にしようと思います。

もう一つ印象深かったのは模試についてです。2 学期初めに模試の結果が戻ってきて、BCD の判定が出て、第 1 志望校が D 判定だったことにガッカリしました。ガッカリして、結果から目を背けていた気がします。今月受けた模試も結果を気にしすぎてしまうあまり、受けるのが嫌でした。でも、模試は本番で同じ失敗をしないために、今のうちに失敗をしておくためのものだということがわかり、これからはもう少し前向きになれると思います。

講演会を通して思ったのは、今が受験勉強を本格的に意識し始める時だということです。とは言っても、今やっていることがすべてです。今までは「一生懸命」という言葉が好きでしたが、これからは、「七転八倒」を心に刻んでがんばりたいです。意味のない努力は極力減らし、意味のある努力をする努力が必要だと思いました。失敗を繰り返しても、同じ失敗をくり返さないように、身につけるまで復習をします。

この講演会を通して、今やるべきことが少し見えた気がします。

Gさん (5 期生)

進路が決まって

私は、今高校 3 年です。あっという間の 2 年間でした。3 年生は、ついに進路のことについて悩む時期です。私もとてもいろいろ悩みました。興味のある学校のオープンキャンパスへ行き、どの学校が自分に合っているのか、どの環境で勉強したいのか、とても悩みました。いろいろ悩んだ結果、私はある看護専門学校を受験しようと決意しました。それから、私は必死に受験に必要な受験勉強をし

ました。受験は、小論文と面接でした。毎日、放課後学校に残り、担任の先生と 2 人で面接練習をがんばりました。他に、もっと厳しい先生に頼み、面接練習をしていただいたり、プライベートでも面接練習をひたすらがんばりました。面接官に予想もしないことを聞かれても答えられるようにと、自分の思いを言えるように必死でした。小論文は、看護師についてどんなお題でも書けるような文章を考え、自分なりに工夫しました。何回も何回も書いて覚えました。学校では、友人や先生方に助けてもらい、家では、母が応援してくれ、支えてくれました。

受験当日、私はすごく緊張していました。思っていたよりも人数が多く私はとても不安でどうしようもありませんでした。小論文を受け、お題が練習していたのと違いすぎて冷汗が出ました。それでも、がんばって覚えた文章を少しでも無駄にならないように小論文に少しづつ言葉を入れました。自分なりにがんばれてホッとしたのもつかの間、一番緊張する面接がせまってきました。何度も練習した面接も自分なりに頑張れてよかったと思いました。

私は、入試を経験してたくさんのかんじました。自分の周りにいる人々にどれだけ支えられ、サポートを受け、アドバイスをもらい、応援してくれていて、私は、自分の周りの環境への感謝の気持ちでいっぱいでした。周りがいてくれたからこそ、より一層頑張れたと思いました。今回の入試で、自分がどれだけ良い環境にいるのかわかりました。

来年、専門学校で学び良い看護師になれるように頑張ります。

S さん (5 期生)

希望が見えてきました

10 月 29 日、夜 21 時 30 分、無事に京都から帰ってきました。今日の遠足を終えて、高校生活については、受験しか残っていないとも言えます。今まで、僕はこの作文の機会を借りて勉強の文句をさんざん言ってきた気がしますが、今回は珍しく良いお知らせをいたします。

今年の夏は不安と背中合せで、勉強をして、充実していました。そうはいうものの、やはり勉強が足りないと思う時があります。初見の数学問題にやられたとき、「ゆかし」を何回見ても初見にしか見えなかったとき、「チロキシ」の働きを思い出せなかったとき・・・気が弱ってしまった僕がいました。こういう曇っていた僕に、やさしく照らしてくれたのは模試の結果でした。夏休みの末に受けた模試の結果に、僕の第一希望校欄に初めて D 判定が出ました。それまでは E 判定だけでした。「今まで頑張ってきて良かった。」と、それが僕が D 判定を見た瞬間に、まっさきに思いついたことでした。その D 判定に力をもらい、頑張って勉強していました。一番最近の模試結果に初めての C 判定ができました。「やればできる。」という言葉をとっても実感しています。

数えてみると、センター試験まではもう三ヶ月しかありません。最近までは、焦りを感じながら、過ごしていました。全部やりきることは無理だといつの間にか気づき、焦りはなくなりました。むしろ早く入試を終えて、自分のやりたいことを早くしたいという考えが芽生えました。受験という段階はたしかにつらいですが、毎日の勉強から僕は充実した思いを感じています。「今まで頑張ったことを無駄にしちゃあかん。」と、意気消沈の僕に、担任の先生がいてくれました。そのときは、まだ落ち込んでいて、「はい。」と、軽く返しました。その後、思い出すたびに、力をもらいました。これからは、「今まで頑張ったことを無駄にしない」という信念を入試を終えるまで、貫いていきたいと思えます。

N さん (5 期生)

母親の言葉

私みたいなハーフの人にアドバイスできることは一つです。お母さんの母語を学んで忘れないで話せるようになることです。

私が小さかった時、お母さんの国、フィリピンでずっと住んでいました。もちろん毎日お母さんの母語、タガログ語で話しました。タガログ語も英語も問題なく話すことができましたが、お父さんの母語の日本語は一言も話すことはできませんでした。お父さんとは英語で話していました。十五年間、ずっとそういう状況のままでした。

しかし、五年前に日本に住むことになって、日本語も勉強するようになりました。今は父と話す時は、もう日本語になりました。前よりは話すことが多くうれしかったのですが、日本に来た時に幼かった弟と妹たちはいつの間にか母の母語を忘れてしまいました。

初めは問題になることだと思っていませんでした。自分は父の言語を話せないでいたので、今回は母と話すとき、日本語で話してもいいと思いました。

今回は違うと気づいたのは、妹が学校でいじめられているということを知り、学校の先生から聞いたことからでした。母も私もなぜ私たちにそのことを話さなかったのかを知りたかったのです。

その時は日本語を教えてくれていた先生に聞きました。その先生は長いこと外国から来た子どもたちに日本語を教えており、よくこういうことが起こると言われました。

子どもたちは小さい時から不安なことがあれば、お母さんに話すことが多いです。お母さんだからきくとアドバイスをくれるだろうと信じています。けれど、もしお母さんの母語ではないときは、自分が誤解される不安が生まれてきます。どうせ私が言うことをわかってくれないだろうと考えてしまうのです。

母とのコミュニケーションは大切です。世界で自分のことを一番わかっているのは母親だからです。大人になっても不安なことがあれば母と話したくなるのです。

自分も母親の母語を話せるのであれば母との誤解もなく、大事なことについて話している時は絶対にわかり合えるということが一番です。母親とコミュニケーションをとれない時はだれでも不安になっていくと思います。母親の言語を大事にするべきだと思います。

～今後の予定～

2015 年 3 月 1 日(日)～3 月 31 日(火)	2015 年度(第 8 期)奨学生募集
2015 年 4 月 5 日(日)	2015 年度(第 8 期)奨学生面接
2015 年 4 月 19 日(日)	2015 年度(第 8 期)奨学生オリエンテーションと交流会

今年度も引き続き、募金箱設置にご協力いただきありがとうございます！

(順不同、2015 年 2 月 6 日現在)

百済、(財)神戸国際協力交流センター、神戸映画資料館、ほっとすてーしょん、おかしの家、神戸市教職員組合、神戸市教育会館、兵庫県学校厚生会神戸支部、広東料理悠苑、甲南女子大学多文化コミュニケーション学科、タンカフェ、神戸YWCA、ベトナム料理メコン、南インドカフェダイニング チャルテチャルテ、ブラジリアーノ、焼き肉みなみ、部落解放同盟兵庫県連合会

今後も引き続き、募金箱設置をお願いいただける団体・店舗を募集しております！

皆様のご協力を宜しくお願いいたします。

奨学資金の寄付を受付中です

ご寄付いただける方は、以下のゆうちょ銀行の口座までお願いいたします。

口座名義：定住外国人子ども奨学金実行委員会

口座番号：

(ゆうちょからの振込の場合) 1 4 3 7 0 8 7 4 5 4 7 7 1

(他行からの振込の場合) 店番 四三八 普通預金 8 7 4 5 4 7 7

問い合わせ先 定住外国人子ども奨学金実行委員会

〒653-0038 神戸市長田区若松町 4-4-10 アスタクエスタ北棟 502

NPO 法人 神戸定住外国人支援センター(KFC) 気付

TEL078-612-2402 FAX078-612-3052

E-mail kfc@social-b.net Web <http://www.social-b.net/kfc/scholarship/>